



学校だより

令和4年6月8日 NO.15HP

尼崎市立金楽寺小学校

校長 中根 孝介



栽培や観察での気づき・楽しみ，成長の喜び！

朝，登校してくると育てているアサガオに水をあげに一目散に走って行く子どもたちがいます。1年生です。春から夏にかけてのこの季節は，学校では，花や野菜などの植物の栽培に大忙しです。アサガオだけではなく。サツマイモ，マリーゴールド，ヒマワリ，ミニトマト，ナス，キュウリ，ピーマン，オクラ，レタス，ゴーヤ，ヘチマにヒョウタン，…多種多彩です。生活科や理科などで多くの学年が植物の栽培と観察に励んでいます。簡易花壇を新設し，5・6年の栽培委員会も取り組んでいます。

自分が育てた植物が少しずつ生長し，花が咲き，実ができる過程を，視点をもって細やかに観察していくことで，多くの気づきがあります。形や大きさだけでなく，色や手ざわり，におい，葉のつき方など，注目すべき視点はたくさんあります。目に見えて育っていく様子を見て，喜びや楽しみも感じます。自分が気づいたことを，友だちと交流したり，掲示された観察日記を見たりすることで，互いに学び合い，高め合います。こうしたことを積み重ねていくことで，子どもたち自身の成長にもつなげていきます。

ご家庭でも「学校で何を育てているの?」「どのくらい大きくなった?」などと尋ねていただき，ほめたり励ましたりしながら，子どもたちの意欲を育てていただくようお願いします（栽培・観察の学習がない学年もありますので，ご了承ください）。もちろん，自然が相手ですので，上手く発芽しない，十分生長できていないなどということもあります。でも，再チャレンジするなど代替の方策で粘り強く継続していくことができればと思います。根気よく，声かけをお願いいたします。

私自身，ミニトマトの脇芽の栽培や様々な植物のさし木に再チャレンジしていきたいと思います。去年は，アジサイやサクラのさし木に成功，ドングリ（クヌギ）も発芽し生長しましたが，ミニトマトの脇芽からは実が2個しかとれませんでした（元株からはたくさんとれました）。また今年は新たに，1株のヒマワリから1000輪の花の栽培やイチヨウのさし木，レタスの再生栽培などにも挑戦していきます。



水泳シーズンを前に

～職員研修から～

水泳シーズンを前に，教育委員会から講師に来ていただき，校内で水泳指導についての研修会を開きました。尼崎市立小学校では，コロナ禍のため，この2年間プールでの指導が行われていません。そのため，今回は特に「初級者に向けた水泳指導」を中心に水泳指導のポイントを研修しました。保護者の方からも「この2年間，プールや海に全く入っていないので不安です」という声も聞きました。研修では，家庭でも参考になりそうな事柄がいくつもありました。少しだけですが紹介します。特に，③の「水の中で目を開ける」は，家のお風呂や洗面所でも簡単にできそうです。

①水への恐怖心を和らげる・・・人にとって，冷たい，音が聞こえづらい，おぼれてしまわないか不安など，不安要素がいっぱいある水泳です。温かい声かけをしながら，段階を追って水に慣れていくことで，きっと水と仲良くなれます。

②水に浮く感覚を身につける・・・足で水底をけり，前へ進みます。手を使って水をかけば，より大きく前へ進めます。できるだけ大股で駆け抜けるような動作で自然と身体が水に浮くような感覚になります。そんな経験が大切です。

③水の中で目を開ける・・・水が苦手な子にとって，大きなハードルになるところです。まずは，シャワーや洗顔などで，目をパチパチさせることが第一歩になります。目をこすると痛くなるので，目にかかった水は，人差し指でワイパーのようにシュッシュッと払いのけます。どうしても水中で目を開けられない場合は，「薄目でいいよ。」の一言が，大きく進歩させます。少しでも開けられたら「見えた?もっと見えるかな?」と笑顔で声をかけることで，次のステップへと進みます。またたく間に，水中で目を開けられるようになります。

他にも，水慣れの方法や呼吸法，けのび，バタ足，25m完泳をめざした指導法など多くを学びました。学校職員もいつまでも「学ぶ姿勢」を忘れず，子どもたちの学びと育ちを支えていきたいと思います。

薄目でいいよ。